別紙

2025年度 輝くまちづくり交付金　実施報告書

1　事業内容

団体名	釧路コピーワークショップ実行委員会
事業名	釧路の若者と“いま、ここ”を見つめるコピーワークショップ
課題テーマ	地域を担う人材育成
事業目的	・若者自身が“ここで何かやりたい”という気持ちに出会うきっかけをつくる ・若者同士が、上下関係や優劣を超えて、素直に表現し合える場をつくる ・地域の語りや歴史に対して、若者自身のことばで応答する試みを育む ・「地元」に対して遠さを感じる若者の、まちとの関係性を耕す対話の入口となる ・「地元肯定感」を育む：地元肯定感は“地元を好きになること”ではなく、“地元にいる自分を好きになること”を意味します。釧路という土地で過ごす“今の自分”をことばにする体験を通して、そのままの自分でいていい、ここにいてもいいという感覚を育みます。
事業内容	■開催形式 対面ワークショップ（11月頃に1日開催） 講師：池端宏介　様 1978年北海道北見市生まれ。上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。日本デザインセンターなどを経て札幌市のデザイン会社（株）インプロバイド所属。職域はブランディング、広告、パッケージデザイン、ネーミングなど。主な実績は「よくねたいもネーミング」「JR貨物北海道支社広告」など。各地でキャッチコピーづくりのワークショップを展開されている。 ■参加対象 高校生・大学生・専門学生（釧路市内・近郊） 参加予定人数：20名程度 ■ワークショップのテーマ 「地元の若者にもっと地元に興味をもってもらうためのキャッチコピー」 ※完成したコピーは希望者のものをまとめて展示・発信予定 ■実施内容 オープニングセッション

	└ アイスブレイク・ことばの感受性を開く小さなワーク キャッチコピーづくりワーク └ 若者のまちへの思いを表現 シェア＆対話 └ 他者の言葉に触れ、自分の表現と重ね合う時間 クロージング └ 全体共有・講師からのフィードバック ■キャッチコピーづくりの利点 ・「そもそも」で問題の本質を探る ・多様な視点をもつ練習 ・社会への問題提起意識の醸成 ・他者の気持ちを推し量る ・コトバを自由に柔軟に使う ・仲間のアイデアに触れる ・意外な「自己肯定感」の発見 ■形式に込めたこだわり 本企画では、「講義」や「講演」ではなくワークショップという形を選んでいます。そこには、表現はすべての人から生まれうるものであり、優劣なく尊重されるべきものという信念があります。 ワークショップとは、そうした「今ここにいる私だからこそ生まれるもの」を受け取り、差し出し合う場です。 それは一方通行の「教える／教わる」ではなく、共に生み出し、響き合う営みです。 この形式を通して、若者が安心して表現し、「そのままの私」に価値があると感じられる瞬間をつくり出したいと考えています。
事業展開	■事業の概要 ・2025 年 11 月 24 日、MOO2 階「港まちベース 946BANYA」にて開催いたしました。 ・当日は 20 名の参加申込みがあり、19 名が参加しました。（内訳：教育大釧路校 11 名、釧路公立大学 4 名、釧路高専 4 名、高卒生 1 名） ■今回の成果 ・学生交流の視点 └市内の「クリエイティブ」に関心がある学生が多く集まった。ワークショップ中はお互いの作品の過程を観察したり、自身が思いつかなかった表現に唸ったりと、直接的にも間接的にも交

	流が行われていた。 ・キャリア教育的視点の成果 └「身近な職以外の人と出会えるのが貴重」「コピーライターという職種を知ることができて良かった」という声が聞かれたことから、多様な職業観に触れる機会としても意義があったことが伺える。 ■今後の課題 参加対象者の大学の授業や帰省、部活動などの予定が重なることが多く、参加希望者が日程を合わせにくい点が集客面での課題として挙げられる。今後は、より早い段階で日程を告知するなどの工夫が必要である。
成果目標の達成状況	・ワークショップ後の継続的な小規模対話会・実行委員会の設置（希望者による任意参加） →外部で行われている、「まちを語る場」への参加案内を行っている。
波及効果の達成状況	・展覧会の実施 →形を変え、作品集の作成を検討しています。 ・地域創造型の活動への学生の接続 →「港まちベース 946BANYA」、「街逢室」への活動参加 本ワークショップに参加した学生の多くは、「学生団体くしラボ」が実施する「北大通り街歩きイベント」に参加している学生であった。また、釧路市内の地域イベントに参加している学生の多くは、北海道教育大学地域文化研究室、釧路高専建築科、公立大学ボランティア団体「くしもり」、大学生協の学生など、すでに地域活動に関心を持ち行動している層に偏っていることが分かった。 このことから、地域に関心を持ち行動することが習慣となっている学生には情報が届きやすい一方で、専門学校や短期大学、教育大学の他研究室の学生、公立大学の多くの学生などには情報が届きにくい、あるいは参加のきっかけが生まれにくいという課題が見られた。また、知り合いがいない状態で一人で参加することに心理的ハードルを感じる学生もおり、参加層が広がりにくい状況がある。 さらに、参加学生からは、地域活動が団体やグループ単位で行われることが多く、個人として自分のキャリアに直接結びつく経験の機会を求める声も聞かれた。今回のワークショップをきっかけに、「港まちベース 946BANYA」でのインターンや「街逢室」への活動参加を始めた学生が数名いる。これらの活動は、

	従来のボランティアでは得られない,管理者と学生の双方のコミュニケーション、活動を期待でき、地域創造的な人材としても期待できる。 今後は、より多様な学生に情報が届く広報方法の検討や、初めて参加する学生でも参加しやすい仕組みづくり・告知の強化、活動の段階的な紹介等が求められる。
実施体制	釧路コピーワークショップ実行委員会 委員長・会計：鈴木美咲（北海道教育大学釧路校４年） 副実行委員長：柳生乃愛（北海道教育大学釧路校２年） 佐藤優香（北海道教育大学釧路校２年） ※当日の会場費、音響管理費は港まちベース 946BANYA 様に協賛いただきました。
連携した市担当課	無 ・ 有（〇で囲む）（釧路市総合政策部　企画課）
連携した市担当課が果たした役割（※有の場合）	企画段階において開催方法や告知の仕方について相談にのっていただきました。

2　支出決算書と支出内訳

（収入）

費目	決算額（円）	内訳
輝くまちづくり交付金	100,000	
参加者参加費徴収	9,500	500 円×19 名
合　計	109,500	

（支出）

費目	決算額（円）	内訳
対象経費		
委託料	100,000	コピーワークショップコーディネート費
印刷製本費	360	周知チラシ・アンケート用紙等[波
小　計	100,360	
対象外経費		
小　計	0	
合　計	100,360	